



浜研通信



第12号

平成27年7月

浜地域研究所の近況をお知らせします

浜研通信は、浜地域研究所の試験成果や近況を皆さまにお知らせすることを目的に年3回発行し、5年目を迎えました。この間、放射性セシウム及び塩害の対策や新たな産地化に向けて園芸作物の試験を紹介してまいりました。

紹介する試験内容は、書面の関係でダイジェスト版となっております。より詳しくお知りになりたい方は、最後のページの連絡先までお問い合わせ願います。

今後とも、浜研通信をよろしく願いいたします。

水稲

浜地域研究所では、水稲の有機栽培において問題となる雑草対策について試験を行っております。写真は高精度水田用除草機を使用し除草作業を行っている様子です。試験は、農研機構・他県の試験研究機関、民間企業、大学と連携して行っており、最終的に水稲有機栽培技術マニュアルとして取りまとめ公開する予定です。



春まきタマネギ

浜通り地域は冬暖かく夏涼しいことから、タマネギ出荷の端境期となる7月、8月の収穫を狙った新たな作型について研究を行っています。写真は4月10日に定植したタマネギの生育調査を行っている様子です。今年度はマルチ栽培の適応性についても調査しています。タマネギの結球も大きくなり、収穫は7月中旬となる見込みです。



作物の生育状況

〈水稻の作況試験〉

作況試験の水稻は、5月中旬～6月前半の高温多照により、ひとめぼれ、コシヒカリともに草丈は平年より長く、茎数は平年より多く、葉色は平年並み、主稈出葉は1日程度遅れています。生育過剰なほ場では倒伏が懸念されますので、幼穂形成期の生育状況に応じて減肥や倒伏軽減剤などの対策をとみましょう。

〈小麦の作況試験〉

平成26年10月27日に播種した小麦「きぬあずま」は、高温多照により生育が早まり、出穂期は平年に比べ9日早い4月26日、成熟期は11日早い6月9日でした。成熟期の稈長は平年より短く、穂数はやや少ない結果となりました。収量についても平年よりやや少なくなる見込みです。

田んぼの生き物たち

農業に関わる生き物の紹介

ヒメアメンボ(カメムシ目アメンボ科)

田植えが終わった水田に行くと、水面をスィーッスィーッと滑るように走るアメンボを見ることができます。アメンボと一口に言っても、実は福島県には10種類ものアメンボがいるのです。このうち、水田にいるアメンボはその多くが体長1cmほどのヒメアメンボという種類です。

アメンボの名前の由来は、飴(アメ)のような匂いがすることからきていますが、残念ながらヒメアメンボを捕まえてもあまり匂いはしません。ヒメアメンボよりも大型のナミアメンボやオオアメンボは手に取っただけでわかるくらい匂いが強いです。ただ、飴の匂いと言っても、昔の飴のイメージなので、現代の子供たちに匂いを嗅がせたらまったく別の答えが返ってくるかもしれません。



facebook更新中



浜地域研究所のfacebookページを更新中です。日々の作業風景など浜地域研究所の活動をご紹介します。ぜひアクセスいただき、ご覧ください。



QRコード、URLです。
ホームページからもアクセスできます。

<https://www.facebook.com/nogyocentre.hama>

浜地域研究所facebookページ

福島県農業総合センター浜地域研究所
4月7日

☆新体制スタート! ☆



いいね! · コメントする · シェア

編集・発行 福島県農業総合センター浜地域研究所

浜地域研究所

検索

〒979-2542 相馬市成田字五郎右エ門橋100 TEL (0244)35-2633 FAX (0244)35-0319